

論文審査の結果の要旨

氏名：朝 生 浩

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：Evaluation of Chemokine mRNA Expression to Assess Allergic Inflammation of the Ocular Surface in Chronic Allergic Conjunctival Diseases

(慢性アレルギー性結膜疾患の眼表面上に発現するケモカインの mRNA 発現の評価)

審査委員：(主 査) 教授 権 寧 博

(副 査) 教授 中 静 裕 之 教授 大 島 猛 史

教授 浅 井 聡

本研究は、慢性アレルギー性結膜疾患の眼表面上に発現するケモカインの mRNA 発現について検討したものである。アレルギー性結膜炎、春季カタル、アトピー性角結膜炎などの病気を含むアレルギー性結膜炎疾患（ACD）は IgE 依存性即時型アレルギー反応を病態とする結膜の炎症性疾患である。アレルギー性結膜炎の臨床検査において、涙液サンプルやインプレッションサイトロジー検体におけるアレルギー関連因子の検討が、結膜のアレルギー性炎症の程度を評価するために有用であることが報告されている。

本研究では、AKC と VKC と診断された 19 例を対象に眼球表面からシルマー試験紙を用いたインプレッションサイトロジー法によって涙液サンプルを採取し、IL-1 α 、CXCL8、IL-16、CCL24 の mRNA 発現量を検討した。結果、これらサイトカイン、ケモカインの mRNA 発現量は、鎮静気 ACD 患者及びコントロール群と比較して、活動期 ACD 患者で増加することが分かった。さらに、サイトカイン発現パターンは、CXCL8/IL-1 α 系と IL-6/CCL24 系の 2 つのサブグループに分類され、慢性 ACD 患者の結膜におけるアレルギー性炎症の悪化には 2 つの異なるタイプが存在することが本研究により明らかになった。本研究は、慢性 ACD 患者の炎症の重症度や疾患予後、さらに患者のフェノタイプを同定する上で、本解析方法が有用であることを示した点で意義のある研究である。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるのに値するものと認める。

以 上

令和 4 年 1 月 26 日